

令和3年度第2回高松市入札監視委員会の結果について

- 1 開催日時 令和3年10月25日(月)午前9時30分から午前11時00分まで
- 2 開催場所 高松市役所 3階 32会議室
- 3 出席者 委員5名

(1) 委員

委員長	紀伊雅敦	(香川大学創造工学部教授)
委員長代理	富家佐也加	(弁護士)
委員	天谷研一	(香川大学経済学部准教授)
委員	春日川路子	(香川大学法学部准教授)
委員	塚本秀和	(公認会計士・税理士)

(2) 市側出席者

外村財政局次長(契約監理課長事務取扱)、楠契約監理課技術検査室長、後藤契約監理課長補佐、鴻上契約監理課技術検査室検査担当課長補佐、松本建築課長、池添地域振興課長、中尾競輪場長(競輪場事業課長事務取扱)、橋本下水道整備課長、里石都市整備局次長(道路整備課長事務取扱)、吉岡西部クリーンセンター所長ほか

4 会議の概要

(1) 報告

市発注工事等の入札・契約状況などについて

ア 工事等の発注状況について

令和3年5月から8月までの工事及び建設コンサルタント業務などの発注状況について報告を受けた。

工事

一般競争入札 87件 公募型指名競争入札 45件 随意契約 4件 随意契約
(緊急工事) 12件

合計 148件 約60億2,968万円

建設コンサルタント業務

公募型指名競争入札 24件 指名競争入札 1件 随意契約 28件

合計 53件 約3億2,749万円

イ 指名停止の状況について

令和3年5月から8月までに行った指名停止等の状況について報告を受けた。

合計 2者

(2) 審議(抽出事案について)

令和3年5月から8月に開札を行った工事等のうち、委員会があらかじめ契約方式別に以下の5件の工事等の事案を抽出し、指名の経緯などについて審議した結果、いずれの事

案も指摘に相当する問題点はなかった。

抽出事案

- ア 高松市十河コミュニティセンター建設工事
一般競争入札 建築一式工事
- イ 高松競輪場ナイター照明設備等設置工事
一般競争入札 電気工事
- ウ 下水道管路施設耐震化工事（1 1 工区）
公募型指名競争入札 土木一式工事
- エ 水道橋外 2 橋橋梁補修設計業務委託
公募型指名競争入札 土木関係建設コンサルタント
- オ 令和 3 年度西部クリーンセンター焼却プラント定期補修工事
随意契約 清掃施設工事

(3) その他

- ・ 次回の会議の日程 令和 4 年 2 月（予定）

5 質疑応答（要旨）

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>「高松市十河コミュニティセンター建設工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築一式工事の他の案件に比して落札率が高いように思われるが、理由があるか。 ・ 見積りの結果として、価格が高くなったとした場合、予定価格超過で失格となっている業者もあるが、事後的に応札業者の見積りの妥当性を検討しているか。 ・ 民間企業から見積りを取った結果と合わせて、市の積算を別途行っているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築一式工事の場合、積算に当たり、見積りを多く採用するため、その点が影響し、応札額が高くなる傾向がある。本案件も見積りが多く含まれており、落札率が高くなっているものと推測される。 ・ 各応札業者の見積りによる積算の妥当性については、個別に分析はしていないが、市の積算した予定価格の範囲内であれば適切な積算を行ったという判断で決定をしている。 ・ 市の設定単価があるものは、市の単価を採用し、採用し難い設計内容については、見積りを取り、単価を決定している。

<p>「高松競輪場ナイター照明設備等設置工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松市十河コミュニティセンター建設工事については、3億円を超える予定価格で単体企業での発注であったが、本案件は2者のJV発注となっている。これは、建築一式工事と電気工事で、基準上取扱いが異なるためか。 ・ミッドナイト競輪は、どのような時間帯で行われるか。 ・評価調書における施工計画の具体的な評価方法及び点数の付与の方法はどのようなものか。 ・高松競輪場については、収益を確保しつつ、存続をすることが決定しているが、ライフサイクルコストの観点から、本案件に係る建設費用について、どのように評価しているか。 ・応札した業者数は2JVであったが、応札数について、どのように評価しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みのとおり、業種によって設定基準が異なっており、さらに規模が大きな工事になると、2者又は3者のJVを条件として発注する場合もある。 ・ミッドナイト競輪については、20時40分から24時で行うが、観客を入れず、インターネット上のみでの発売を行うもので、現在のところ、周囲の自治会の方から御理解はいただいている状況である。 ・案件ごとに提案項目を設定し、評価基準に基づき評価された場合は、あらかじめ定められた加算点を付与する。提案項目を複数設定している場合は、その合計点としている。 ・収益の向上と、施設の安全性の確保を条件として存続を決定したものであるが、現在、他場を借上げて開催しているミッドナイト競輪を自場で開催した場合は、年間1億円から1億3,000万円の収益の向上を想定しており、3年で本件の費用については回収することを見込んでいる。一方、施設の老朽化への対応が課題となっていることから、今後、その整備も進めてまいりたい。 ・工事等を発注する場合、市が求める実績を有する業者をあらかじめ確認した上で発注しており、本案件は、JVの代表者として10者、構成員として20者の応札可能業者を想定していたが、実際の応札業者は2者であった。本案件には、照明の高度な精査が求められる特殊な部分が含まれてお
---	--

<p>「下水道管路施設耐震化工事（11工区）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の下水道総合地震対策計画に基づき発注された工事であるが、計画は何年程度で策定されるものか。 ・応札業者が1者で、土木工事としては、落札率も高いように見受けられるが、見積りが難しい工事であったのか。 ・舗装工事と同時期に行うことで、下水道の工事を効率的に進めるような取り組みはあるか。 	<p>り、そのことにより、応札意欲が低下したものと推測される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回の計画期間は、5年としている。下水道管路施設は、市内で1,500km弱あり、全ての耐震化の完了時期は、現段階において確定は出来ないが、緊急物資の輸送に必要な輸送路など、優先順位の高い箇所から順に耐震化を行っているところである。 ・応札業者数については、年度末に近づくにつれ、各業者の手持ち工事件数が増え、応札が少なくなる傾向があることから、可能な限り早期発注に努めているが、他の発注工事等の状況により、応札数が増減することがある。 <p>また、落札率に関し、本工事においては、必要な圧力解放弁を指定していること及びその箇所数が少ないことから、業者の企業努力を積算に反映することが難しく、業者の積算と、市の設計金額との間に開きがなくなり、結果的に落札率が高くなったものと推察される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舗装工事を行う際に、下水道の耐用年数が近ければ、併せて工事を行うなどの工程調整を行っている。また、下水道の損傷が激しい場合、改築などに開削工事が必要となるが、その前に、非開削の方法で工事を行えるよう努めており、本件工事についても、非開削の方法で行うものである。
<p>「水道橋外2橋橋梁補修設計業務委託」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年以内に修繕が必要な橋についての工事であ 	<ul style="list-style-type: none"> ・法に基づき、5年ごとに業者及び本市職

<p>るが、修繕の必要性の判断はどのように行っているか。</p>	<p>員の点検を行い、安全性を確保している。点検の結果は、1～4で判定され、3の判定は5年以内の修繕が、4の判定は緊急の修繕が必要である。前回の点検において、修繕が必要とされた45橋について、計画的に修繕を行っているところである。</p>
<p>・コンサルタント業務委託は、落札率が低い傾向にあるが、本案件について、落札率が高くなった特殊事情はあるか。</p>	<p>・落札率が高くなった理由は不明である。本委託業務の積算において、採用する歩掛は公表しており、地理的なメリット等により、低い価格で入札できる場合があると推察される。土木関係建設コンサルタントにおける最近の案件についても、落札率には60%～94%とばらつきが認められる。</p>
<p>「令和3年度西部クリーンセンター焼却プラント定期補修工事」</p>	
<p>・予定価格の設定方法はどのようなものか。</p>	<p>・設計については、全国都市清掃会議の設計基準、建設物価等、公になっている積算単価を用いて作成しており、見積りが必要な部分については、業者から見積りを取り、設計書へ反映させている。予定価格については、設計金額を基に、契約担当課で設定を行っている。</p>
<p>・ランニングコストの推移は、当初の想定の内となっているか。</p>	<p>・平成25年に策定した長期修繕計画に基づき、修繕を行っている。日々の施設運営に伴う想定外の損傷があり、修繕費は上がっているものの、厳しい財政事情の下、真に必要なものについて精査しながら、実施している。</p>